

進んでかかわり合い、 高め合う子どもの育成

— 言語活動を中核に据えた学習づくりを通して —



妙高高原北小学校チーム

本山 恵美(M1)

阿部 直樹(M1)

鈴木 詩織(M2)

寺島 元子(M2)

松本 修(アドバイザー)

研究主題

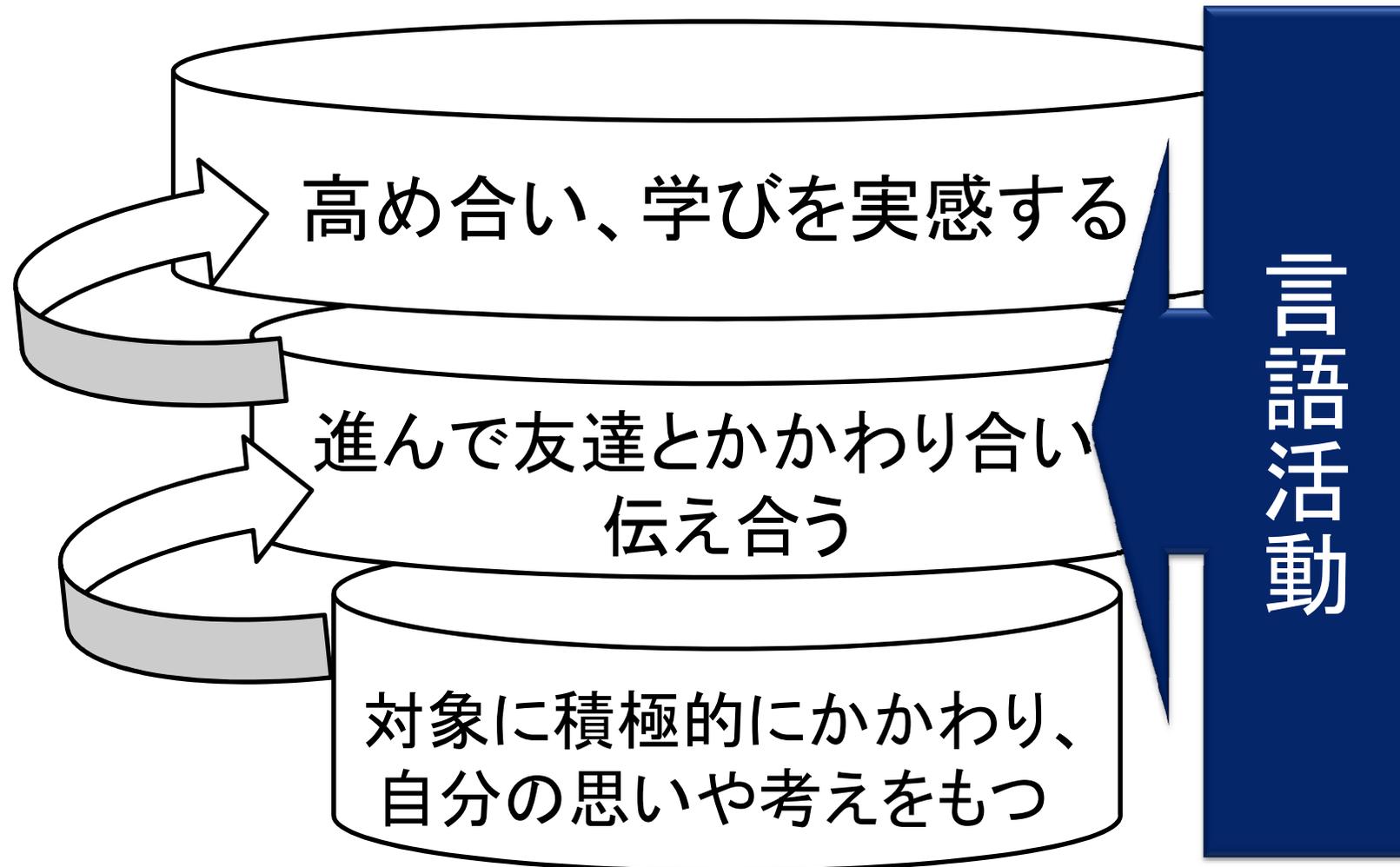
進んでかかわり合い、高め合う子どもの育成
～自分の思いや考えをいきいきと伝え合い、
学びを実感する姿を目指して～

目指す子どもの姿

- ・「ひと・もの・こと」に進んでかかわり、課題に対して自分の思いや考えを書き表し、自信をもって友達と伝え合ったり、伝え合いを楽しんだりする子
- ・得たことや学んだことを友達と持ち寄り、さらに追究しながら自分の考えを膨らませていく子
- ・自分や友達の学びを評価し認め合い、新たな課題を見付けて取り組む子

研究の内容

3段階の学びのプロセスを軸とした授業実践



支援の方法

【校内授業研究への支援】

- ・研究推進委員会の一員という位置付け
- ・授業者が指導案を作成する段階からの支援
- ・本時のみならず公開授業單元において、授業補助を行い、ともに授業を作るというスタンスでの支援
- ・協議会への参加や授業分析といった事後の支援

【言語活動をつくる】

- ・支援チームによる言語活動を中核に据えた学習デザインによる授業実践
- ・新学習指導要領に明言された「伝統的な言語文化の学習」について、古典学習への一提案

国語科における言語活動の成立条件

清水・松本・井上(2011)

- ①話す・聞く・書くことの重視
- ②学習者に応じた内容をつくる

- ・論理的表現の知識・技能、スピーチ発表の知識・技能を活用しながら習得するように言語活動を組織する。
- ・言語活動が、学習者にとって探究的なものとなるように学習をデザインする。

6年生国語科授業支援

〈単元名〉「平和」について考える

〈単元の流れ〉

<p>第1次 (2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「平和のとりでを築く」の要旨を捉え、<small>自分の考えをまとめる。</small>
<p>第2次 (9時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「戦争」について調べ、集めた情報を 「歌に込めたい思い」(結論)を書き、<small>自分の考えをまとめる。</small> 資料リストから取り出し、スピーチの構成を考える。 <u>班で話し合い、互いのスピーチの内容や構成を検討する。</u> (本時) 前時の助言を参考に、スピーチの内容や構成を推敲する。
<p>第3次 (6時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> スピーチ発表練習。 <u>ビデオ撮影と文化祭での放映。</u> 学習の振り返り。

論理的表現の知識・技能を活用しながら検討。

探究的な課題により、相手・目的意識の共有を図る。

〈本時の展開〉

<p>導入 15分</p>	<p>○本時のめあての確認。</p> <p>○検討の観点と手順の確認。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>観点①「中」（根拠+理由）と「おわり」（結論）のつながり</p> <p>①a 「中」に「おわり」の根拠として適さない情報はないか。</p> <p>①b 「おわり」（結論）は、「中」の情報を反映して具体的に書かれているか。</p> <p>観点②「事実」（根拠）と「考え」（理由）の記述の区別</p> </div>
<p>展開 25分</p>	<p>○班ごとにスピーチ構成の検討</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○本時の振り返りと次時の予告。</p>

〈データ〉

- ・ 展開部の班ごとの話し合い活動の会話分析をする。
- ・ 参観者の印象の異なる5班と6班を対象とし、比較考察する。

5班 TIのスピーチ構成の検討場面

参加者：TI（男子）、KM（男子）、YM（女子）

〈TIのシートの問題点〉

結論が、戦争について調べた情報を反映した書きぶりになっていない。

6班 RAのスピーチ構成の検討場面

参加者：RA（男子）、NO（男子）、RW（男子）

〈RAのシートの問題点〉

結論（「歌に込めたい思い」）が考えられていない。

〈5班〉

121KM：／／うん、ここまではさ、あれじゃん、自分が、その、「Hey和」に込めたい思いじゃなくって、ゆずがどんな思いで「Hey和」を作ったかじゃん（.）だからこれはいいと思う。ここまでは。

122TI：ふう

TIのシートの「中」と結論とが
つながらない理由を明確に説明。

導入段階で検討の観点を明示
(論理的表現の知識・技能の共有)

↓
スピーチ構成の課題の明確化

↓
課題に対する問題意識の共有

→ 各自が課題を自覚

↓
話し合いの活性化

〈6班〉

138 T S : RAくん (.) 聞いてもいい？空襲って何？

「空襲」と「原爆」
との違いを正しく
認識していない。

139 RA : わからないっすね、よく
わかんない＝

140 T S : ＝空襲自体が分かってない？＝

141 RA : ＝なんかよくわからない＝

142 NO : ＝な : :、げ、原子爆弾が
落とされる。

(中略)

6班の検討は、RAの問題点の
解決につながらなかった。

217 NO : だから、だから、「Hey和」に、戦争で
空襲を使わない、使わない、使わないでほしいと
いう思いを込めます。(1) よし、できたよ＝

比較考察

(5班 T I) 考えはあるが、書きぶりが適切でない

(6班 RA) 考えがもてない(理解不足が原因)

題材「戦争」に対する理解不足が、結果として「論理的表現の知識・技能」の習得を妨げた。

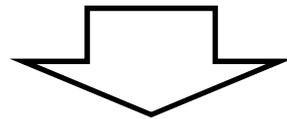
(5班) T IとKMは情報リソースを共有していた

(6班) メンバーが正しい知識を共有していない

正しい知識や情報をメンバー間で共有できているか否かが、学習の成立を左右する。

成果

- 探究的な課題により、相手・目的意識が共有され、スピーチ構成を検討する必要が高まった。
- 論理的表現の知識・技能を明示したことで、同じ問題意識をもって検討に臨むことができた
- 問題点を自覚したタイミングで交流活動を組織した。

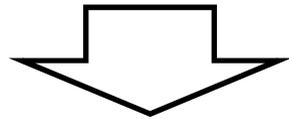


話し合いを活性化し、望ましい相互作用をもたらした。

進んでかかわり合い、高め合う姿

今後の課題

- 題材に対する十分な理解や、正しい知識の不足が論理的表現の検討を難しくした。



単元で目指す国語科の知識・技能の習得に適した題材の選定が重要である。

伝統的な言語文化の学習の課題

「(中学校学習指導要領の提案が)生涯にわたって
古典に親しむ態度の育成にもつながるものであるため
には、各段階の指導が古典へのrespect(敬愛・尊
敬)を育むものであることが必要」 竹村(2010)

「竹村の言うrespectの礎となるような教材の価値を
学習者自らに気づかせる仕掛けが学習デザインに
必要」 松本(2011)

〈新学習指導要領〉

伝統的な言語文化に関する指導については、各学年で
行い、古典に親しめるよう配慮すること。

4年生国語科授業実践

〈単元名〉発見を短歌でよもう

各自の考えをグループ
で共有

価値への気づ
きを学習者間
で共有

〈単元の流れ〉

第1時	<ul style="list-style-type: none">・この歌のおもしろさを考え、友達と意見交流する。・自分なりの発見を短歌で表すことを知り、表現の仕方（三十一音で表現すること、間に「かたちして」をはさみ、見立てたものを上の句に実物を下の句に入れること）を知る。
第2時	<ul style="list-style-type: none">・各自が、自分なりの発見を短歌で表現する。・作った短歌をグループで交流する

教材の作品に
倣いながら

読み取った作品の価値を
活かしながら

成果①

- 学習者自身に作品の価値を追求させ、それを交流させたことにより、コミュニケーションの中で作品の内容や価値に迫っていく姿が見られた。

成果②

- ・教材作品に倣って短歌を詠むことで、自分なりの発見や感動を、五音七音のリズムに親しみながら楽しく表現する姿が見られた。

子どもの作品

白色のチラチラ雪の

かたちして

ビーカーの下 ふり積もる雪

くるくると長いへびの

かたちして

かきの皮むき かぞくのために

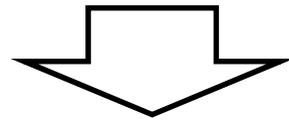
冬よるてんしのなみだの

かたちして

まちにふってる 白いこなゆき

今後の課題

- 互いの考えをワークシートにメモし合うだけで話し合い活動が終わり、望ましいかかわり合いの生まれないグループもあった。



例えば「自分の考えとの違いに注目して聞く。」
「友達はなぜそう思ったのか理由をきく。」など、意見を交流させる手立てを示せばよかった。

5年生国語科授業実践

〈单元名〉 狂言を読もう

〈单元の流れ〉

<p>第1時</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>しびりの映像をまねして読む。</u> • <u>教師が演じるのを見て前半部の内容を</u> • <u>前半部を教師の後に続いて読む。</u> • <u>前半部から後半部を予想する。</u>
<p>第2時</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>教師が演じるのを見て後半部の内容を</u> • <u>後半部を教師の後に続いて読む。</u> • <u>第1時での自分の予想と比べる。</u> • <u>役に分かれて読む。</u> • <u>狂言しびりを読んでの感想を書く。</u>

T・Tで演じる

黒板で内容確認

繰り返す。
立たせる。

成果①

- T・Tで演じたことや黒板を使い全体で内容確認を行ったことで、全員が前半の内容を踏まえて後半を予想できた。
- 前半から後半の予想をしたことで、第2時では内容を考えながら集中して教師が演じるのを見ていた。

成果②

- 狂言について各自が自分なりの感想が持てた。
— 子どもの感想 —

言葉

ふつうの会話ではあまり使わない言葉がたくさんあっておもしろかったです。

自分で読んでみると昔の言葉を読むのがむずかしかったです。

言いまわし・動作

体を使うところがおもしろかった。

内容

気付いたところは太郎冠者は、わるぢえがはたらくということです。

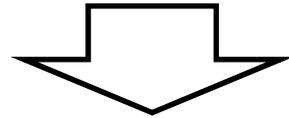
おもしろかったのは、太郎冠者のすぐばれるうそです。

昔の人もみんな狂言のような「おもしろい話」が好きだったんだなあと思いました。

ほいのところが面白かった。

今後の課題

- 狂言の調子を楽しめない児童がいた。



- 第2時の面白いと思った場面を選びペアで読む活動の時間を十分確保する。

支援を通じた学び

1 校内授業研究への支援を通じた学び

① 探究的な課題設定の重要性

- ・学習者間における相手意識・目的意識の共有
- ・課題を自覚させ、友達とかかわり合う必要を感じさせる。

② 交流活動における検討の観点としての知識・技能の明示の有効性

- ・習得させたい知識・技能を交流活動の前に明示し、観点とする。
- ・同じ問題意識をもって課題に向き合い、検討する。

③ 必要感ある課題とタイミングで交流活動を組織することの重要性

- ・自分の問題点に気付き、修正の必要を感じたタイミングでの交流
- ・学びを深めるかかわり合いを生むような相互作用

支援を通じた学び

2 授業実践を通じた学び

① 探究的な課題設定の重要性

- ・学習者が古典作品の価値に主体的に気付けるような探究的な課題を設定し、学習活動を組織することが重要。

② 価値への気付きと声に出す楽しさとを兼ね備えた学習デザインの重要性

- ・単に音読や暗唱を繰り返すのではなく、作品の価値に気付かせながら音読を楽しませることが重要。
- ・価値への気付きや内容理解が伴うことで、音読や暗唱は、より楽しいものとなる。

引用・参考文献

- 1)松本修:「言語能力を育成する「国語」の授業改善」,『教育時評』, No.21, pp.16-19, 学校教育研究所, 2010.6.
- 2)清水登紀子・松本修・井上功太郎:「言語活動の成立条件に関する臨床的研究」,『全国大学国語教育学会 国語科教育研究 第120回京都大会研究発表要旨集』, pp.283-286, 全国大学国語教育学会, 2011.
- 3)清水・松本・井上(2011):前掲論文
- 4)光村図書出版:『小学校国語 学習指導書 六 創造(上)』,平成23年2月
- 5)鶴田清司:『対話・批評・活用の力を育てる国語の授業 ―PISA型読解力を超えて―』, pp.69-111, 明治図書, 2010.
- 6)松本修:『文学の読みと交流のナラトロジー』
, 東洋館出版, 2006.
- 7)松本修:「国語科教育研究における話し合いプロトコルの質的三層分析」,『臨床教科教育学会誌』, 第3巻1号, pp.74-82, 臨床教科教育学会, 2004
- 8)松本修:「伝統的な言語文化の学習を成立させる条件」,『全国大学国語教育学会 国語科教育研究 第120回京都大会研究発表要旨集』pp143.-146, 全国大学国語教育学会, 2011.
- 9)竹村信治:「古典の読解力」,『中学校国語指導シリーズ 充実した読解力養成のために』, pp.17-24, 学校図書, 2011
- 10)文部科学省:『小学校学習指導要領』p28, 平成20年3月
- 11) 文部科学省:『小学校学習指導要領解説 国語編』, p3, 東洋出版, 平成20年8月